

（季節と人々の祈り）

季節の祈りと伝統

概要

若狭地域では年間を通して、神社やお寺、山、畑、海辺、そして家庭などで、多数のお祭りや儀式が執り行われています。田の神々のために行われる儀式から、豊作を祝う賑やかな行列、海の平穏を祈る海辺の儀式まで、さまざまです。この多様性は、人々のさまざまなライフスタイルや職業、そしてこの地域の信仰や伝統を形作った交易主導による影響を表しています。これらの風習は、代々受け継がれ、人々はその先祖たちと同じように季節を刻みます。

もっと詳しく知る

新年

お正月の期間は、自身や集落の前年の厄を祓い、来たる年の幸運を祈る時期です。若狭の各地で行われる弓射ち（弓を射る）の儀式は、特別な的に向かって矢を放つことによって、その年を占いますトイワイ（またはキツネガリ）と呼ばれる行事では、神々に代わって子どもたちが村を回り、幸運を授けるために、唱えごとをしたり神事用の槌や棒で戸口をドンドンと叩いたりします。

春と夏

田植えの時期に行われるたくさんの神事は、五穀豊穡を祈願するものです。5 月下旬から 6 月上旬にかけて、若狭町の約 30 の集落で、田の神（田んぼの神様）祭りが開催され、この祭りでは、子どもたちが小さな持ち運べる社（神輿）を担ぎ、集落や田畑を練り歩きます。他の子供たちが行列に同行し、お清めのために唱えながら儀式用の竹の杖で地面を打つ地区もあります。

お盆

8 月中旬には先祖の霊が家族のもとに帰ると考えられており、霊を迎え、そしてその後、無事に送り返すために様々な儀式が行われます。お盆の最も代表的な儀式の一つは六斎念仏で、鐘と太鼓のリズムに合わせて救済と転生のための念仏の祈りを唱え踊ることを含む仏教法要です。六斎念仏は何世紀も前に京都からもたらされ、今でも若狭の約 20 の集落で、踊り方や参加者の年齢、衣装も様々な演じられています。同じく京都発祥の伝統である松上げという火の儀式では、大きな松明が野原に設置され、夕方になると男性たちが、松明に火を点けるために燃える薪の束を投げます。

海に面した集落では、船がしばしばお盆の祭りに利用されます。その一例が、精霊船送り（船を送る）という儀式で、祖先の霊が生者との訪問の終わりに霊界に戻るための儀式用の船を提供します。おおよそ八つの集落が今でもこの伝統を実践しており、竹、稲わら、麦わら、草、その他の材料で船

を造り、旗や色とりどりの吹流しで船を飾ります。船はお供え物で満たされ、海に漂って行きます。

秋と冬

この季節には、自然の神々へ豊作や保護に感謝するためのお供え物を捧げるために、たくさんの儀式が行われます。大島半島では、ニソの杜^{もり}と呼ばれる宗教的な行事があり、遠い祖先たちが神として、地元の森の聖域や山のふもとにある離れた小さな祭壇で祀られます。霜月の先祖祭（11 月に先祖を崇拝する）がその風習に含まれ、11 月下旬または 12 月に祭壇で特別なお供え物が奉納されます。若狭地方全体で祝われる山の神々のための山の神祭の間、同様のお供え物が冬の期間に、小さな祭壇に置かれます。これに続いて特別なごちそうがあり、その日は山での作業は禁止されています。

展示品

この部屋の品物は、四季折々に開催される若狭地方のさまざまな祭り、行事を表しています。「お正月」のコーナーには、子どもたちが村の家庭に幸運をもたらすために使用する木槌が展示されています。「春と夏」のコーナーでは、田の神のための神輿などがあります。この神輿のほとんどは竹や小麦、わらでできており、天然の繊維がどのように巧みに編まれ、形や装飾が作られているかが示されています。「お盆」のコーナーでは、特徴的な鐘や手持ちできる締^{しめ}め太^{だい}鼓^こという太鼓など、六斎念仏の楽器の例が紹介されています。精霊船という船は、大きな 2/3 スケールの模型で表現されています。「秋と冬」のコーナーでは、リアルな食品模型で、古代の神々に捧げられる供物について説明しています。山の神まつりの場合は、お供え物は、美しい女性に嫉妬する山の女神をなだめると信じられているオコゼや、いけにえの「身代わり」と考えられる女性の絵が描かれた 12 枚の木簡などがあります。